

2020年オリンピックの東京開催が決定しました。久々の明るいニュースに日本中が歓喜の声に包まれました。現在会員登録数1,207人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は10月22日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》ＹＯ！この本読んだ？ Yasuko's & Okiko's Talk

《2》読書活動ボランティアのためのワンポイント 37

《3》サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■ 【1】お知らせ ■

● 第14回国際グリム賞 贈呈式・記念講演会 参加者募集

講 師：第14回国際グリム賞受賞者

キンバリー・レイノルズ博士（英国ニューカッスル大学教授）

演 題：「知られざる英国児童文学史

ー1910年～1949年の見過ごされてきた作品を中心にー」

通 訳：松下宏子さん（関西大学ほか非常勤講師）

日 時：平成25年10月27日（日）午後2時～4時45分

会 場：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町8）

定 員：150人（申込先着順）

参加費：無 料

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団／財団法人 金蘭会／

大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

共 催：日本イギリス児童文学会

お申込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html#251027

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。11月2日（日）の午後で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。申込締切は10月21日（月）必着。 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

● 当財団編『子どもの本 100 問 100 答』が創元社から刊行されました
子どもの本に関わる質問や疑問を 100 問にまとめて答えた「子どもの本ハンドブック」。子どもに本を読んでほしいと願っている人や図書館、家庭文庫や読書推進に関わる諸団体のための手軽で便利な相談ツールとして編集しました。書店等でお求めください。

書名：子どもの本 100 問 100 答 司書、読書ボランティアにも役立つ
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団/編

発行：創元社 2013 年 8 月 A5 判 224 ページ 1,890 円（税込）

● 「第30回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（木）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#30boshu

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 27 号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『バンヤンの木 ぼくと父さんの嘘』アーファン・マスター/著 杉田七重/訳
静山社 2013年4月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：1947年、ピラルは、がんで死を迎えようとしている父親がショックを受けると、インドからのパキスタン分離を伝えられず、「インドは一つだ」と父の死まで嘘をつき通す。その嘘を宗教の異なる親友3人、学校の先生、主治医等が支援する。一方、現実の世界では、暴動が起こり、親友たちも別れなければならなくなる。

Y：インドを舞台にしたこの時代の作品を読んだことがなかったので、とても新鮮に感じました。

O：原題は“Beautiful Lie”、イギリスの作品ですね。さまざまな宗教の人たちが商売をしている市場のまとめ役であったイスラム教徒の父親に、ピラルは、父の理想を守ろうと、国が分離することを知らせず、まわりの人を巻き込んで、必死で「嘘」を守ろうとします。

Y：60年後ピラルは、死の間際に書かれた父親からの手紙を受け取り、父親

が担当医によって歴史的事実を知っていたこと、自分のために嘘をつきとおしてくれた息子を誇りに思っていたことを知ります。

○：謎解きの要素があると同時に、読者に「真実と嘘」についての思考を促している点が哲学的で、とても興味深いと思いました。

Y：「美しい嘘」の対比として、ビラルは、テロリストのグループに加わっている兄に「醜い真実なんて、ぼくらはいらぬ」と言い、父を守ろうとする姿勢を示します。

○：日本語タイトルの『バンヤンの木』ですが、バンヤンの木は、インドを象徴する木であり、作品にも出てきます。ただ、日本の読者には、ピンとこないかもしれません。

Y：嘘をテーマにしつつ、この作品で楽しかったのは宗教も個性も異なる4人の少年たちの友情です。考え深いビラル、ビラルの家の訪問者を見張るために屋根の上に居続けるすばしっこいチョウタ、落ち着きのあるマンジート、心の広いサリームが宗教も家庭の背景も越えてお互いを思いやる様子に心が温くなりました。

○：クライマックスで描かれる独立間近の闘鶏の場面は迫力がありましたね。闘鶏を見ながら人々が暴力性を増し、人と人々が殺し合う場に少年たちが巻き込まれてしまいます。「醜い真実」が見える場面でした。

歴史の動いた日を、真正面から大真面目に描いている本を久しぶりに読みました。歴史の本で見えなかったことを、フィクションとして見せてもらった感じがします。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 37

その6 絵本の読み方(12)『どろんこハリー』を読む：ハリー、ねむる

第14見開き右ページは、家族がハリーを認め、受け入れる場面です。「ハリーだ！ハリーだ！やっぱりハリーだ！」とハリーの名前が3回呼ばれることで、この言葉が重要であり、後半のクライマックスであることがわかります。そして、「やっぱり」という言葉に、家族がどろだらけになったハリーは受け入れられないけれど、元の姿に戻ったハリーは受け入れられるという意志を読み取ることができます。

それに対して、ハリーは「ぶるん ぶるん」としっぽをふり、「とってもとっても」うれしくなります。このように反復された言葉が多いことで、ハリーの感情の高ぶりを表現しています。そして、家族は、ハリーにブラシをかけます。このとき「みんなで」「やさしく」という言葉が、家族がハリーを受け入れていると同時に、ハリーと家族の気持ちの高まりがおさまっている様子を表現しています。

絵を見ると、男の子がブラシをかけていて、女の子はほおずりをし、背後で両親がハリーと子どもたちに手を差し伸べているように描かれています。ハリーを含めた5人が一つの輪のようになっていて、家族の絆が感じられます。

このような状況のまとめの言葉として、このページの最後の文「もとのように、くろいぶちのある しろいぬになりました」があり、落ち着いて読むことで、ほっとして最後のページへと移動します。

第15見開き左である最後のページは、ハリーがふとんの上に体を丸くしてねむっている絵です。ハリーの体そのものが句点（。）のような働きをし、終わりが強く印象づけられます。このページでは、まず、ハリーのほっとした気持ち、夢に見たというどろんこ遊びを振り返る楽しい気持ちを伝えていきます。

そして、最後の文は、再びブラシを隠しているハリーのいたずらな様子と、あくまでもお風呂は嫌いという意志を表現しつつ、これでこのお話しはおしまいということを読み手に伝える必要があります。読み方によっては、続きがあるようになってしまうのでやや難しいのですが、少しスピードを落とし、「ちっとも きになりませんでした」というハリーの人物像を読み手と共有して楽しみ、これからも続く日常を想像しながら終わるという読み方であれば、作品を終わらせることができると思います。

そして、見返し→裏表紙→表紙へと戻って作品を読み終わります。

*次号は「その6 絵本の読み方(13) 『どろんこハリー』を読む：原文と比べる」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇 17 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

● 国文学研究資料館 増田太次郎広告コレクションデータベース

<http://base5.nijl.ac.jp/~masuco/>

このコレクションは、戦後雑誌「宣伝」を主宰し、宣伝広告のコンサルタントとして活躍した増田太次郎氏（故人）が、広告史研究のために収集したものです。掲載資料数は約 16,500 点。そのうち、約 8,400 点が第一次公開分として提供されています。江戸期から明治、大正、昭和にかけての広告資料が含まれており、希少なコレクションです。

児童文化や子ども関係の広告記事を拾ってみると、〈子供〉では 211 件がヒット。子ども服や帽子、薬品など、さまざまな分野の広告が出てきます。子どもの遊び絵などがあしらわれた図像は時代を感じさせて興味深いものがあります。

また、昭和 5 年に開催された「紀元節童話会・講演・映画会」（時事新報社主催）の広告や、昭和 8 年に東京上野で行われた「万国婦人子供博覧会」、また「こども博覧会」（東京日日新聞社主催）の広告など、メディアイベントを調べるうえで資料的に貴重なものもあります。

誰しも、広告に胸を躍らせたことがあるのではないのでしょうか。雑誌に掲載された書籍、文具、楽器、カメラや時計、美容品など。その時々の子どものニーズをとらえて、広告は常に読者を魅了してきました。児童文化史はもとより、社会史、生活風俗史、広告史の貴重なアーカイブで、広告主である企

業等にも現存するものは少ないと思われます。今後、雑誌等に掲載された広告にまで対象が広がり、データベースとして構築されることを期待したいと思います。(J)

※次号は、一次資料データベース篇〈その18〉の予定です。

《4》 行って来ました！

伊丹市立美術館で開催中の「THE COLLECTION 2013」に行ってきました。
ROOM 1は、当美術館のコレクションから「○△□（まる・さんかく・しかく）」、
ROOM 2は、小さな絵本美術館（長野県）の所蔵作品を加え「Around “PUNCH”
19世紀イギリスの挿絵と絵本」のテーマで展示されています。

まず ROOM 1は、いろいろな絵や彫刻の中に表現された○△□を集めた展示です。幾何学的な図形で色のグラデーションがきれいなものもあれば、絵の中に隠れた図形を探しながら見るのがおもしろいものもあります。子どもが見ても楽しめる展示でした。

ROOM 2は、時代に沿って3つのコーナーに分けられています。「I 「物語る絵」のはじまり 諷刺版画から挿絵へ」では、印刷技術が発達して本に挿絵が入れられるようになった19世紀のイギリスで活躍したジョージ・クルックシャンクの作品を中心に紹介されています。クルックシャンクの挿絵は、絵を見るだけでお話や情景が浮かんできます。巨人につまみあげられて今にも食べられてしまいそうな「ホップ・オ・マイ・サム」の場面を見て、このお話の続きを見てみたいと思いました。

「II 諷刺雑誌“PUNCH”と挿絵画家たち」では、児童文学の挿絵も手がけたリチャード・ドイルやジョン・テニエルなどの諷刺画が紹介されています。刀のかわりに羽ペンを刺した武士が描かれた「ジャパン・パンチ」や、ジョン・リーチが描いたクルックシャンクの『オリバー・ツイスト』の挿絵のパロディ、テニエルの諷刺画の中に、後に描かれた『不思議の国のアリス』の少女に似た絵がある等、ひとつひとつ見ていくのが楽しかったです。

「III 「子どものための本」の発展 そして「絵本」の誕生」では、19世紀後半に子ども向けに描かれるようになったランドルフ・コールデコット、アーサー・ラッカムなどの絵本が紹介されています。

サイズの小さい展示物が多く、目を凝らして見ていきました。詳しい解説がつけられていて、とても見ごたえがありました。この美術館では、子どもの本についての展覧会がよく開かれますが、背景にはこんなコレクションがあったのだなと感じました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 自然と本のコラボレーション

「森とともにだちになろう！ -森の絵本づくり-

貝塚市にある自然いっぱい少年自然の家で、森の散策・自然の素材探し、

自分だけの絵本づくりを楽しみます。

月 日：平成 25 年 10 月 5 日（土）～6 日（日）1 泊 2 日

対 象：幼稚園年長～小学生を含む家族、小学生以上は子どもだけの参加可

定 員：10 家族または子ども 30 人まで

参加費：有料 申込み：必要（申込先着順）

主 催：大阪府立少年自然の家

協 力：大阪府立中央図書館 / 大阪国際児童文学振興財団

● 大阪府子ども文庫連絡会 児童文化講座

公開講座 やっぱり図書館が大事 Part22

「大阪の歴史・文化と中之島図書館～タンタンの想い～」

講 師：藪田 貫（関西大学教授、大阪都市遺産研究センター長）

日 時：平成 25 年 10 月 8 日（火）午前 10 時～午後 3 時

場 所：大阪市立中央図書館

参加費：無料 資料費：実費 申込み：必要

主 催：大阪府子ども文庫連絡会

後 援：大阪府教育委員会／大阪市教育委員会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号の【1】お知らせで紹介しました当財団編『子どもの本 100 問 100 答』（創元社 1,800 円＋税）を 1 名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで 件名「メルマガ NO.37 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は 10 月 10 日（木）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

前回の東京五輪のときは高校 1 年生だった。妻は、聖火燃える国立競技場で陸上競技を観戦したことを思い出としている。7 年後には新しい競技場で、生涯に 2 度自国で観戦できる幸運な人になることに胸を膨らませている。振り返れば、大阪が立候補して惨敗したのは、まだ 12 年前のことだ… (A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
